

令和3年度 学校評価 パワーアッププラン

学校名	丹波市立 中央小学校
-----	------------

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
<p>教育目標『人とのつながりを活かし、自ら可能性を広げる児童の育成』</p> <p>～ 自律 × 創造 × つながり力 ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律する子：自分で考え、判断・自己決定し、行動できる子 ・創造する子：自分なりの考えをもとに、新しい考えを創り出す子 ・つながれる子：互いの考えを聴き合い、学び合いができる子 	<p>職員も児童も地域・保護者も学びが楽しいと実感する学校づくり</p> <p>○仕事を楽しむ職員室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「協働」「創造」「喜び」を大切にした職員組織・効果的な時間の使い方の考察 <p>○学習を楽しむ教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校が楽しい」「授業がおもしろい」と言える児童の増加 ・自分の良さが認められる教室の実現 <p>○子育て・教育を楽しむ家庭と地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に興味を持ち、参画する地域住民の増加 ・地域行事との積極的な連携

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策
学校運営	開かれた学校づくり	・学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。	B	<p>情報発信手段を大幅に変更した昨年度から1年が経過し、当初は戸惑う声が多く見られたが、メールやHPによる情報発信への理解も進み、結果に伸びが見られてきている。</p> <p>デジタルの良さも取り入れつつ、紙媒体や直接連絡を取り合うといったアナログの良さも生かしながら教育活動や子どもたちの姿を伝えていかなければならない。</p> <p>感染状況も加味しながら保護者・地域の方が来校できる機会を今後も設けていく。</p>
	生徒指導	・家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。 ・感染について正しく理解し、感染予防に努める子どもを育てる。	B	<p>質問紙調査の結果から、挨拶に対する児童の意識と大人の意識とのずれが見られた。家庭・地域などの学校外でも積極的に挨拶を行えるように、児童に啓発を行っていく。</p> <p>また、学校生活の様々な場面で、感染に関する知識についての指導や啓発を行ってきた。さらに、人権的な視点での感染予防についての指導も行ってきた。児童は感染予防を意識して生活できている場面も見られるが、引き続き、休み時間などには教職員からの声かけをしながら、必要に応じて啓発を行っていく。</p>
教育課程	学習指導	・「聴き合い、対話し、学び合う学び」を通して、「分かった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。 ・協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団づくりに努める。	A	<p>どの学年も研究授業を通して、発達段階に応じた対話のあり方を模索し、日々の教育活動につなげることができた。授業においては、児童が学び方（個人・ペア・グループ等）を自ら選択し、その中で友だちと学び合う姿が多く見られるようになってきている。さらに、伝え合うだけにとどまらず、学びを深めたり広げたりすることにつながるよう、学び合いの質を高めていきたい。また、学習でのタブレット端末の活用も活性化しており、児童の「分かる」「できる」を支えるツールのひとつとなっている。一方、タブレット活用が個別最適化された学習に向けて進んでいる一方で、協働的な学びにおける活用については、引き続き研修等で進めていく必要がある。</p>
課題教育	人権教育	・学校の指導や家庭との連携を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を育むように努める。 ・感染症の影響によるいじめや差別・偏見等の啓発を通して、児童の心のケアに努める。	B	<p>学校と家庭が連携して、根気強く子ども達の伸びを認め、声かけをしていった結果、自分の気持ちが上手く伝えられず、暴言や暴力的な行動が目立っていた子が、徐々に落ち着き、心身ともに成長している姿が見られるようになってきた。</p> <p>感染症の影響によるいじめや差別・偏見については、集会や学級指導で啓発を行なった。また、どの児童に対しても、安心できる声かけをすることで、心のケアに努めた。今後も一人ひとりに向き合い、自尊感情を育てるとともに安心して生活できる指導を行っていく。</p>

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子を知りたいという気持ちは誰にでもある。今後も積極的に情報発信してほしい。保護者がホームページにできるだけアクセスできるように、工夫してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は今後の社会生活においてとても大切なものである。今後も学校だけでなく家庭での教育も重要になってくる。社会人になった時に挨拶ができる人になるよう、改めて学校でも指導をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートからも子ども達の学習意欲が高まっていることが分かる。さらに意欲が高められるような研修をお願いしたい。 ・学んだことをアウトプットする場合は、学習内容の定着に繋がるため重要である。その機会を増やしてほしい。 ・読書は学習の意欲向上にもつながるため、機会の充実を図ってもらいたい。 ・タブレットを使うようになり、良くなった点、配慮しなければならない点について、児童の変化に気をつけながら検証してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・互いに思いやりの気持ちをもって接する力は、これからの社会に不可欠である。そのため、相手を大切にしたい会話ができるよう、引き続き指導をお願いしたい。 ・保護者がスクールカウンセラーや関係機関とつながれるよう、引き続き周知してほしい。

※領域（3領域） 学校運営、教育課程、課題教育
 ※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等

※達成状況 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善

自己評価の実施方法についての評価

<ul style="list-style-type: none"> ・細かにアンケートを分析し、評価されていて良い。 ・児童と教職員、家庭との捉え方が違うこともある。しかし、子ども達が会議に参加することで理解は深まった。

学校関係者評価のまとめ

<ul style="list-style-type: none"> ・こども園から中学校までを見通した、スムーズかつ一貫した教育を展開していることを評価する。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

- ・授業改善によって、自らで考え、判断して課題解決できる、自律した学び手を育てる。
- ・挨拶運動を継続するとともに、感謝の気持ちを伝える機会を学習活動の中で増やしていく。

令和4年3月18日

学校名 丹波市立中央小学校

校長名 西田 隆之



